

トラックドライバー不足が顕在化するなか、宅配便の約2割が再配達となっています

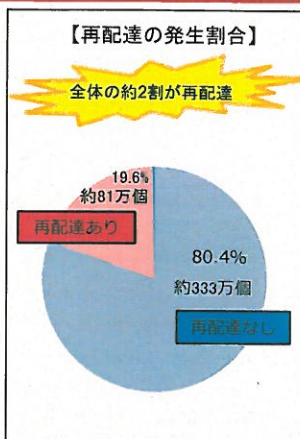
再配達による社会的損失が発生

CO2排出量約42万トン増

- ・ 営業用トラックのCO2排出量の約1%
- ・ JR山手線の内側の約2.5倍の面積の杉林の年間吸収量に相当

トラックドライバーの労働時間増

- ・ 年間約1.8億時間、年間9万人(トラックドライバーの約1割)に相当する労働力が再配達で消費



出典:国土交通省「平成27年度宅配便等取扱個数の調査」
注:2007年度から郵便事業(株)の取扱個数も計上している。

(平成26年12月 宅配事業者3社によるサンプル調査)

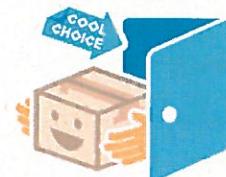
○ 受取方法は色々あります

○ 駅やコンビニ等の公共スペースやオフィス、マンション等に設置した「オープン型ロッカー」や、コンビニ窓口、郵便局などを利用して、希望の時間に荷物が受け取れます。



○ 受取人の受取への積極的参加が必要です

・ COOL CHOICEできるだけ一回で受け取りませんかキャンペーン
～みんなで宅配便再配達防止に取り組むプロジェクト～



宅配便の再配達の削減、CO2の削減に向け、国民運動「COOL CHOICE」の一環として、国民に宅配便をできるだけ一回で受け取ることを呼びかけるキャンペーンを29年3月29日より開始。

1回で受け取りませんか

宅配便の再配達の削減のためのお願いです

再配達削減のために活用をお願いしたい3つの方法

1. 時間帯指定の活用



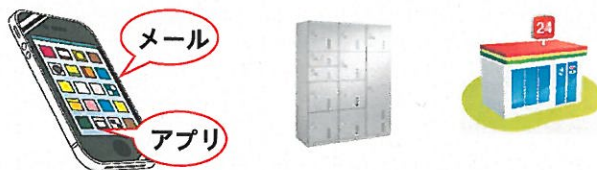
多くの宅配事業者や通販事業者では、受け取り可能な時間帯を指定できます。便利な時間帯指定を活用していませんか。

2. 各事業者の提供しているコミュニケーションツール等(メール・アプリ等)の活用

事業者によって、メールやアプリ等の便利なツールを提供しているところもあります。こうしたツールの活用で、配達予定日時や受取日時の事前変更など、簡単で便利に受取ることができます。

3. コンビニ受取や駅等の宅配ボックスなど、自宅以外での受取方法の活用

平日は仕事でなかなか受け取れない、出張や旅行先で確実に受け取りたい。そんな場合には、コンビニや駅等の宅配ボックス、郵便局、宅配事業者の営業所での受取など、自宅以外での受取サービスを活用すると、便利で確実に受け取ることが可能です。



※宅配事業者により受取場所や時間、利用条件など異なりますので、ご利用の際は各宅配事業者にご確認ください。

※「送料無料」と記載されている場合でも…

通信販売のサイトなどで「送料無料」という記載を見かけることがあります。「送料無料」となっている場合にも、配送については実際にはコストが発生しています。また、再配達等一回で受け取れなければ、二酸化炭素(CO2)排出量の増加や労働生産性の低下による社会的損失が発生します。